

## 第637回建設技術講習会 現場研修事業の概要

### 1. 歴史的治水施設群（信玄堤・石積出・六科将棋頭）…………… 山梨県南アルプス市

山梨県は四方を高山に囲まれたその地形上の特質から、治水が国を治める者の大きな課題でした。甲斐の治水を大きく前進させたのは、戦国武将武田信玄です。なかでも信玄が構築した「信玄堤」は、完成後400年以上たった現在でも治水機能を果たしている代表的な事業です。

甲府盆地中央部を流れていた釜無川は、大雨が降ると甲府盆地の大半が家屋や田畑が流されるなど甚大な被害にあっていたことから、強固な堤防を構築することが必要で、釜無川が甲府盆地へ流れ込む西端であった赤坂台地麓の地に堤防を構築するよう命じたといわれます。

また、御勅使川旧堤防（将棋頭・石積出）は、信玄堤とともに武田信玄によって御勅使川・釜無川を治めるために築かれたと伝えられており、近世・近代には御勅使川扇状地上の集落や耕地を守る治水・利水の施設として機能した堤防施設です。

- ・「信玄堤」は、永禄3年（1560）頃、武田信玄が構築した堤防で、急流河川である釜無川と御勅使川の氾濫から甲府盆地を守る役割を果たしました。現在の信玄堤には、これも信玄考案と伝えられる木製の「聖牛」が設置され、伝統的治水技法が活かされています。
- ・「石積出」は一番堤から五番堤まで残されています。江戸時代には有野集落や水田、さらに下流にある21ヶ村を守る役割を果たしていました。
- ・「将棋頭」は、徳島堰から取水し、後田堰を通して将棋頭内に作られた六科の水田や集落、さらに野牛島、上高砂の水田、集落をも守る役割を担いました。現在は北側のみ残されています。



### 2. 中部横断自動車道整備事業（下部温泉早川IC付近）…………… 山梨県南巨摩郡身延町

中部横断自動車道は、静岡県静岡市を起点に、山梨県甲斐市を經由して長野県小諸市に至る延長約132kmの高速自動車国道です。

中部横断自動車道の整備により、新東名高速道路、中央自動車道及び上信越自動車道が接続され、日本海及び太平洋の臨海地域と山梨県・長野県との連携・交流を促進するとともに、周辺地域における生活、産業、観光面の活性化、異常気象時の交通寸断の改善、地震災害時の緊急輸送路の機能向上、高次医療施設への迅速な移動が可能となるなど、様々な効果が期待されます。

増穂IC以南については、有料道路方式と直轄高速方式による同時並行で整備が行われており、基本計画区間である山梨県北杜市～長野県佐久穂町間については、事業化に向け環境アセスメントの手続きを進めていく予定です。



### 3. 足和田災害（西湖いやしの里根場）…………… 山梨県南都留郡富士河口湖町西湖根場

足和田災害は、その当時「山津波」や「鉄砲水」などと言われていた土砂災害が「土石流」という学術用語になった災害であり、「土石流危険渓流」の調査が全国で行われた契機となった災害でした。富士山北麓に位置する旧足和田村（現在の富士河口湖町）の西湖湖畔の根場地区、西湖地区が昭和41年9月25日の台風26号の豪雨により発生した土石流により、両地区とも壊滅的な被害を受け、残された住民は集落ごと住み慣れた土地を離れ集団移転となりました。根場地区では死者・行方不明者63名、西湖地区では死者31名と大きな災害となりました。

現在の根場地区には、富士河口湖町において、災害前の茅葺き屋根の風景を再現した「西湖いやしの里根場」が整備され、多くの観光客が訪れています。

